



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第33号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎ 聖書からのメッセージ：「キリストは道であり、真理であり、いのちである」 エレミヤ
 - ◎ 聖書と日本「三位一体」
 - ◎ イエスキリストに出会う「イスラエルの教師ニコデモとイエス」
 - ◎ キリストを信じた体験談「留学先で」 by S
 - ◎ 聖書に関する有名人のことば：ボルテール
 - ◎ 聖書贈呈
-

＜聖書からのメッセージ＞

「キリストは道であり、真理であり、いのちである」 by エレミヤ

テキスト：ヨハネ14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

本日は「キリストは道であり、真理であり、いのちである」としてこのことを見ていきましょう。上記テキストでキリストはご自身が道であるとし、「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」と語りました。すなわち、道であるキリストを通らない限り父なる神のおられる天国へ入ることができない、ことを語ります。本日はこのことを考えてみたいのです。

私たちのふだんの生活においても、正しく目的地に着くためには、正しい道を選ぶことが

大事です。間違った道を選んでいてはいつまで歩いても正しい目的地には着きません。

道といえば、私は子供の頃迷子になったことがあります。まだ小さい頃、私は自分の家を離れて一人で少し遠出をしました。いつもは家の近くで遊んでいるのですが、その日は何故だか冒険心が起きてきて、一人で遠くまで歩いていったのです。初めて通る見知らぬ道を歩くのが楽しくてしばらく歩いていたのですが、そのうち、自分が自宅からかなり遠くへ来てしまっていることに気がつきました。「もうそろそろ帰ろう」と思い、今来た道を帰り始めたのですが、方向がまったくわかりません。右を見ても左を見ても知らない町並みなので、どの方向へ向かってよいのかわからなくなったのです。段々日も沈んで夕暮れになりそうです。「困ったな」と思いつつもそれらしい方向に歩いていきました。すると突然自分のよく知っている道に出くわ

「キリストは道であり、真理であり、いのちである」エレミヤ

しました。「この道はJ高校の裏の道だ。この道をまっすぐ行けば、自分の家に帰れるはず」確かにその道は自分の思ったとおり正しい道であり、私はほどなくして無事自宅へ帰ることができたのです。

ことほどさように私たちのふだんの生活においても正しい道を探し出すことは大事です。同じように、死後、父なる神のおられる天国があるとしても、私たちがそこに達する道を知らなければ、そこに入ることはできません。そういう意味あいでは今回は道について考えてみたいと思うのです。さて、今回のテキストの箇所をもう少し見てみましょう。

ヨハネ14:1 あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

ここには、イエスが弟子たちのために天の住まいを用意されることが書かれています。ここに書かれている、天の住まい、父の家とは要するに父なる神がおられる天国、天の御国のことを語っています。

聖書によるならば、人の死後の運命は明確に2つに分かれています。その一つは天国です。そしてもう一つは火の池だとのこと。この2つはあまりに極端に異なりますが、聖書によるなら、人の運命はこの2つのどちらかに分かれるようです。よくいわれる死後人の存在は無になる、ということは聖書は語らないのです。ですので、もし私たちが死後、火の池に入るなどまったく望んでいないなら、私たちは今のうちに、生きている間に

その天国、父なる神の住まいへ入る道を確保しておく、知っておくべきなのです。

14:4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにはわかりましょう。」

ここで弟子のトマスはその道がわからない、どの道を通って我々はその天の父なる神の家に行くのか、と疑問を呈しています。もっともな疑問です。いったいその道とはどこにあるのでしょうか？それに対する答えが冒頭の箇所です。

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

ここで、イエス・キリストこそが、その道であり、このキリストを通らない限り、誰一人父なる神のみもと、すなわち、天の御国に入れないことが語られているのです。聖書はこのこと、キリストのみが道であることを以下の様な表現でも語っています。

使徒 4:12 この方(キリスト)以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

ここでは、私たちが滅びや、裁きから救うのは、イエス・キリストの名前のみであることが語られているのです。このようなわけで、聖書を書かれた神は私たちに対して、天の御国に入る道はたった一つ、イエス・キリストであることを語ります。また、私たちが死後の滅びや恐ろしい裁きから救う名前もたった一人、イエス・キリストであることを語るのです。

「キリストは道であり、真理であり、いのちである」エレミヤ

神がそのように定められたのなら、私たちはこのことを尊重すべき、と思います。私たちが受入れようと受入れまいと、神の私たちへの回答はイエス・キリストという方法なのです。

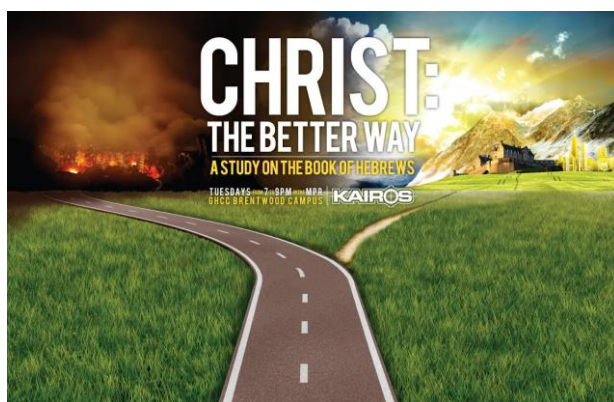
「私は…真理であり」

キリストは道であり、さらに真理であることもここでは語られています。真理ということばの意味合いは本物、という意味があります。いくら本物に似ていても、偽物は、意味をなしません。たとえば、私たちが本物の一万円札を持っていれば、それで、パンも弁当も牛乳も買うことができます。そしておつりだってもらえるのです。しかし、一万円札の偽物ではそうはいきません。レジでばれれば、偽札ではアンパンひとつも買うことはできないのです。同じ意味あいでも私たちがどのような信条や生き方や哲学でこの人生を歩くのかは自由ですが、しかし、それが真理、本物でなく、偽物であるなら、私たちは決して入るべき天国に入ることもないでしょうし、逆に死後火の池に入ったり、滅んでしまう可能性があります。

たとえば、前申し上げた無神論共産主義などがその偽物の例になるかもしれません。神は存在しない、人の魂も存在しない、全ては物質のみである、とするこの無神論の教えは一見よさそうですがしかし、これは真理ではありません。そうであるがゆえ、真理ではなく、偽りの教えであるがゆえにこの教えを採用した国はのきなみ、大きな不幸に襲われています。共産主義の下で6000万人の国民の命を失ったソ連がその例であり、また同じく7000万人の国民の命を失った中国もその例です。さらに今、共産主義の圧制の下で多くの国民が苦しむ北朝鮮もまたその例といえるでしょう。この様な例を通して私たちがこの世において、正しい真理の教え、正しい真実をつかむことが大事であることがご理解いただけるでしょうか。そして、その真理、

本物に関してキリストご自身は「私が…真理である」と語られたことにも耳を傾けてください。

私が若いときにお世話になった教会の0牧師さんは、自分がクリスチャンになったきっかけをこう語っていました。彼がまだ若く高校生であったとき、自分の人生の意味合いに関して、深く悩んだということです。自分は何のために生きるのか、人生の意味合い、目的ということがわからず悩んだ、ということです。学校の先生もどの大人も自分の人生の意味合いなど何一つわからず、生きているようで、悩む彼の目には誰も彼も愚かに見えた、ということです。彼は悩みでノイローゼ気味になってしまったのです。しかし、彼はお母さんにいわれて出席したキリスト教のキャンプの中で、キリストを信じ、真理、正しい道を見出したのです。そして人生が一変して後に牧師さんになられたのです。そのようなわけで、どうぞ耳を傾けてください。私たちが心の奥底で追い求めている、人生の真理、揺るぎのない、正しい真実、正しい目的は確かにこの世に存在しており、そしてそれは、キリストにある、この方が真理、本物である、そのように聖書は語っているのです。是非このことばに耳を傾けてください。



いのちの道、滅びの道

聖書と日本「三位一体」

聖書は日本人にあまりなじみがないものかもしれませんが、実は、そうでもないのです。

三位一体という言葉がありますが、三者が本質的に全く同一であるということ、三つのものが一つになること、三者が心を合わせること、という意味で用いられています。2000年代初め小泉政権下で三位一体改革という名前の政策がありました。このように三位一体という言葉は、よく用いられていますが、実はこれはキリスト教にかかわる言葉です。辞書では、「キリスト教で父(神)・子(キリスト)・聖霊の三位は、唯一の神が三つの姿となって現れたもので、元来は一体であるとする教理。」と説明されています。聖書には三位一体という言葉は出てきませんが、キリスト教の教理の重要な言葉です。神が三つで一つの神であるという内容は、難解に感じられるかもしれません。でも、唯一の神様がどのような方なのかを知ることはとても大切なことです。では父なる神、子なる神イエス、聖霊なる神は、聖書ではどのように記されているのでしょうか。

マタイ福音書の28章20節では、「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け…」とあります。

ここでイエスは「父、子、聖霊の御名」と3つの名前を挙げています。父なる神、子なる神イエス、聖霊なる神は、1つの神だとイエスは示されています。また、イエスは自分と父なる神が1つであることを、次のように説明されています。ヨハネ14章10節、「わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているわけではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。」続けて9節では「わたしを見た者は、父を見たのです」と言われています。

父なる神が、イエスの中にいて、父である

神の思うことをイエスが実行している。また、イエスも父なる神の中にいるのでイエスを見た者は、父なる神を見たのと同じだと言われます。

イエスは聖霊なる神についても次のように説明されています。ヨハネ14章26「助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、・・・」とあるように聖霊は父なる神の霊です。そして、神が聖霊を、イエスを信じる人のもとに助け主として送られるのです。

神ご自身の霊が人の内に住むことを、イエスは、ヨハネ14章23節で「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」と述べられました。聖霊は、神を信じる人の助け主として一人一人の中に住んでくださるのです。神様ご自身が自分の中に共にいてくださるとは、何と心強いことでしょうか。

父・子・聖霊の三位一体の神について、人間的な知識、知恵、常識では、決して悟ることができません。どんなに学歴があろうとも、偏差値が高くても解らないのです。しかし本当に真理を知りたいと求める人は、聖霊によって、悟ることができます。本当に不思議なことです。



三位一体

イエスキリストに出会う「イスラエルの教師ニコデモとイエス」

イエスキリストは2000年ほど前イスラエルに救い主として来られました。その当時の人々は実際のイエスと会うことができました。今は聖書を通してイエスに出会うことができます。ヨハネ3：1～4

さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。

この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますでしょうか。」

ニコデモは、最高法院の議員で老指導者として尊敬されており当時の最高の知識を持っていました。その彼は夜ひそかにイエスを訪れます。ユダヤの指導者達はイエスをガリラヤの田舎者の大工の若僧と軽視していましたがニコデモはイエスに敬意を持ち、教えを受けに訪れたのです。夜訪れたのは人目を避けたのでしようが、夜は闇です。ニコデモが光がない状態、真理が見えず絶望的な死の暗闇の中にいることをも意味しています。イエスはニコデモに、新しく生まれなければ神の国を見ることはできない、と教えます。しかしニコデモは、母親の胎内にもどるのは不可能だ、と答えます。イエスの語られたことは、肉体の体のことではありませんが、ニコデモにはわかりません。イエスは、「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネ3；5)」と語ります。新しく生まれるとは、実際の肉体のお産ではなく、神の霊によって霊的に生まれることです。第二コリント5：17で「だれでもキリストにあるなら、その人は、新しく造られた者です。」とあり、キリストを信じるなら、神の霊により人は新しくなれるのです。しかし、ニコデモは、「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。(ヨハネ3：

9)」と答えるのです。イエスは、「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。(ヨハネ3：10)」といわれました。イエスは、どんな立場の人に対しても分け隔てなく話されます。イエスはすべての人のことを御存知で、厳しいことであっても真実に語られます。イエスはニコデモが教師であるのに神の国を全く分かっていない、という厳しい現実をはっきりと告げられました。

当時のユダヤの指導者たちは、教師でありながら何もわかっていなかったのです。彼らは聖書の言葉よりも、人間の知恵、自分達が作った規律や規則を厳守すれば神の国に入れると考えていました。彼らはイエスに敵対し続け、最後にはイエスを十字架にかけます。しかし、ニコデモは、全く違う行動をします。ヨハネ19章で、彼が有力な議員のアリマタヤのヨセフと共にイエスの埋葬をしたことが記されています。ニコデモはイエスに会い変えられたのです。ヨハネ7章では、議会でイエスについて指導者達が批判した際、彼はイエスのことを擁護しています。そして最後にはイエスを信じる者となっていたのです。イエスが死刑になった時、イエスと行動を共にしていた弟子たちは自分たちも捕まることを恐れ隠れていました。そのような時にヨセフとニコデモの2人はイエスの埋葬をしたのです。イエスを信じると会堂から追放される為、議員などの有力者はイエスを信じても秘密にしていました。会堂からの追放は厳しい社会的制裁でした。イエスを信じたことを公にしたニコデモは、地位や名誉を失うことになり厳しい老年を送ったと想像できます。それでも、ニコデモはイエスを主として生きる人生を選びました。人間の知恵では真理は決してわかりません。ニコデモは、イエスに出会い真理を知り、永遠のいのちの道に入ることができたのです。



イエスとニコデモ

キリストを信じた体験談「留学先で」 by S

以前通っていた教会でのことですが・・・その日は平日でした。日曜日の礼拝では牧師がメッセージをするのですが、平日に行われる集会では献身者（神さまの働きをしている人）の方が代わる代わるおすすめてしていました。その日、女性の献身者がおすすめてをされていて、その中で娘さんのことを証されていました。

その娘さんもクリスチャンなのですが、当時海外にいらしたそうです。「ワーキングホリデー」ということでしばらくその国に滞在することになったそうです。けれども、語学があまり得意では無かったそうで・・・日本にいるご両親にそのことで度々連絡をしてきたらしいです。そして母である献身者の方は言われたそうです。

「あなたが大変な思いをしていることは分かったわ。でもね、そのことを神さまにお祈りして御覧なさい。そうしたらきっと良い方向に行くわよ。」と助言されたそうです。そうしたところ・・・しばらくして娘さんから連絡があって、「お母さんの言う通りにしたら、英語が大分分かるようになった。それから体調が悪かったから、その

ことも祈ったんだけど、少しずつ良くなってきた。」という報告を受けた、とのことでした。

このお話を聞かせていただいたのは、随分前のことなのですが・・・一見人間的な常識では少し考えにくいことなのですが、しかしこの証を通して、神さまには不可能なことは無いのだなあということをしみじみ感じさせられました。以前の教会の礼拝の中でお祈りの時間があり、その時に「人には出来ないが神には出来る！ということを感じて祈っていきましょう！」ということをお祈りする前に司会者が毎回言われていたのですが、それは事実だと言う風に思います。

もし、何かお困りのこととかがありましたら、ぜひ、神さま（イエスさま）にお祈りしてみてくださいね。思っていた結論になるかどうかは分かりませんが、場合によってはイメージとは若干違うかも知れませんが、しかしいずれもベストな方向へ導いてくださったり、助けてくださいますので、よろしければ実践してみてください。

キリストを信じた体験談「留学先で」by S

マタイ 19:16 すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」

19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りなさい。」

19:18 彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。」

19:19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」

19:20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」

19:21 イエスは、彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

19:22 ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。

19:23 それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国にはいるのはむずかしいことです。」

19:24 まことに、あなたがたにもう一度、告げ

ます。金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

19:25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」

19:26 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」

19:27 そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるのでしょうか。」

19:28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。」

19:29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。

19:30 ただ、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。」



祈り

聖書に関する有名人のことば：
ボルテール(1778没)の皮肉な予言



フランスの哲学者、ボルテールはキリスト教や聖書をあざけてこう語った。
「100年以内にキリスト教はその存在がかき消されるようになり、歴史の遺物となるだろう」しかし、彼のこの予言は成就しなかった。それどころか、皮肉にも彼の死後50年後、彼の家はジュネーブ聖書協会の持ち物となり、多くの聖書を貯蔵するために用いられ、また彼の印刷機は多くの聖書を印刷するために用いられた。神は生きておられ、あえて神に反したことばを語るものはこのように恥を受ける。

<お知らせコーナー>

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>